

# 小学校における食育

## —「食に関する全体計画」の提案—

西村 友希\*, 杉浦 文子\*\*, 湯浅 みゆり\*\*, 西村 敬子

### 1. はじめに

「食べる」という行為は、生きていくための最低限の要件であり、健全な発達や成長はこれによって大きく左右される。「食」は、人間の基本的な生活の基盤であり、とても大切なものである。

しかし、現代社会では「食の危機」が叫ばれて久しく、肥満や過度の痩身傾向、朝食欠食、食料自給率の低下、飽食、大量廃棄の現状、食品の安全性など、食の諸問題の深刻化が指摘されている。そこで、国によって、平成 17 年に食育基本法が施行され、食育推進基本計画が策定された。その後も、食育をサポートする様々な政策が出され、食育はとても重要なものとして認識されている。

しかし、「食育」という言葉は、食育基本法には定義されていないため、多様な立場から様々な定義がされている。それらの定義を参考に、本研究では「食育」とは「子どもたちが将来、自分の人生を豊かに生きるために、体験を通して、幅広い食に関する知識と望ましい食を選択する能力を身につけ、それを日常の生活の中に具体化する力を育てること。また、広く食に関する問題に目を向け、知識や能力をもって、批判的に問題を見つめなおし、問題を解決していこうとする能力を育てること。」と定義した。

現代社会における食の問題は、大人だけでなく、子どもにも影響しており、子どもの健全な発達や成長、将来を保障していくために、子どもへの食育、特に学校における食育の重要性が注目されている。平成 21 年の学校給食法一部改正では、「学校給食を活用した食に関する指導」が新設され、第 10 条に「校長は、当該指導が効果的に行われるよう、学校給食と関連付けつつ当該義務教育諸学校における食に関する指導の全体計画を作成すること」とされている。愛知県教育委員会教育長によって、平成 21 年 2 月 23 日に「食に関する指導の全体計画作成について」の通知が、愛知県全小中学校に出され、平成 21 年度末に全県調査が実施される予定である。

本研究室では、子どもへの食育が大切であると考え、2006 年度から食育キャラクター「食まるファイブ」を活用した学校での食育の研究を行ってきた。「食まるファイブ」は、バランスのよい食事について学ぶこと、また、キャラクターを通して、大人も子ども興味を持って共に楽しく食について学ぶことに有効であった。しかし、「食まるファイブ」を活用していく中で、行事的、単発的な取り組みになりがちで、子どもたちに定着しにくいことが課題であった。そこで、「食まるファイブ」を活用した「食に関する指導の全体計画」を作成し、それにそって食育を進めていくことで、より有効な食育の実践が可能になると考えた。

---

\*愛知教育大学大学院生, \*\*刈谷市立日高小学校

本研究では、子どもの発達段階や他の教科や行事との関連を考え、「食に関する指導の全体計画」の中に、「食まるファイブ」を、どこで、どのように位置づけると、系統的かつ継続的な取り組みができ、より有効に食育を進めていくことができるか検討したいと考えた。そして、子どもにとってわかりやすく、楽しく、興味を持って食育を行っていきけるような、また、どの学校でも、「食まるファイブ」を活用した、その学校独自の食育が行うことができる、「食に関する全体計画」案を提案したいと考えた。

## 2. 研究方法

### 2.1 愛知県下の小学校における食育に関する実態調査

#### 1) 愛知県下の小学校職員を対象にした食に関するアンケート調査

愛知県下の小学校 20 校に勤務する職員 446 名を対象に、食生活や食育に対する意識を把握するために、食に関するアンケート調査を行った。

#### 2) 愛知県下の小学校における食育実践についての調査

これまで愛知県下の小学校でどのような食育実践が行われてきたかを知るために、愛知県下の小学校 46 校を対象に、食育実践に関するアンケート調査を行った。

### 2.2 愛知県下の既存の「食に関する指導の全体計画」の検討・考察

「食に関する指導の全体計画」の有効性について検討し、愛知県下の既存の「食に関する指導の全体計画」を収集し、形式等を分析した。

### 2.3 「食に関する指導の全体計画」に「食まるファイブ」を活用した実践の検討

刈谷市立日高小学校において、「食まるファイブ」を活用した「食に関する指導の全体計画」に沿った一年間の実践を、職員に対する事前・事後の食に関するアンケート調査、子どもを対象にした食に関するアンケート、授業等で子ども、保護者の感想、日記等から検討した。これらを基に、どの小学校でも活用できる「食に関する全体計画」案を作成した。

## 3. 結果および考察

### 3.1 愛知県下の小学校における食育に関する実態調査結果

#### 3.1.1 愛知県下の小学校の職員を対象にした食に対するアンケート調査結果

小学校職員の食に対する意識を調査したところ、96%の職員が学校での食育に対して賛成であった。一方、4%の職員が学校での食育に対して反対であり、理由としては、食育は「家庭教育で行われるべき」としており、「家庭教育力を高めるセミナーなどたくさん実施して学校の役割をへらしてほしい」「学校に食育を持ち込む必要がどこにあるのか？多忙さに拍車がかかるのみ」という意見がみられた。

学校での食育はどの領域ですることが望ましいと思われるかという質問に対して、「家庭科」「生活科」「総合的な学習の時間」「保健体育」などの、以前から食に関する指導と関連の高いとされ

る教科を上げる人が多く、「国語」「算数」「理科」「社会」などの教科をあげる人は少なかった。

「子どもたちの食生活に関して問題であると思われることは何ですか」という質問に対して自由回答をしてもらったところ、「偏食、好き嫌い」や「食事のマナー」に関する回答が多かった。

また、学校における食育に必要な食育の内容として「食べ物や作り手への感謝の気持ち」が最も多く、続いて「好き嫌いをなくす」「栄養バランスの知識」「健康や食生活リズムについて」であった。

しかし、食育を今後進めていく上で何をしたらよいのか戸惑っている職員が約 7 割見られた。「食育キャラクターを活用すること」には約 8 割、「食育の教科書のような物があること」には約 7 割、「家庭や地域との連携体制が取れていること」には約 9 割の職員が賛成していた。

### 3.1.2 愛知県下の小学校における食育実践についてのアンケート調査結果

「食に関する指導の全体計画」の作成の有無について尋ねたところ、図 1 に示すように、「食に関する指導の全体計画」を「昨年度以前から作成している」学校は 17%、「今年度から作成し、すでに今年度の計画は完成している」学校が 14%、「今年度から作成する予定であるが、まだ途中である」学校が 35%、「作成していない」学校が 34%であった。

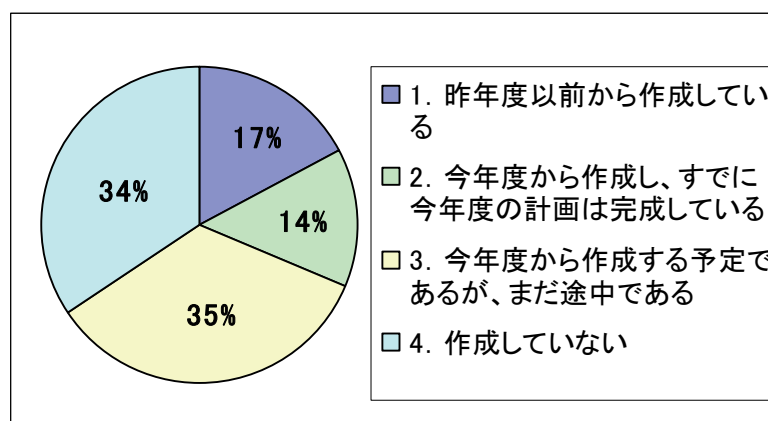


図 1 「食に関する指導の全体計画」の作成の有無について

今年度「食に関する指導の全体計画」をもとに食育を行っている小学校は 3 割強であり、7 割弱の小学校では全体の計画なしで食育を行っているか、または食育が行われていなかった。このことから、「食に関する全体計画」案を提案することは意味があるものと考えた。

食育をいつ行っているかについては、特別行事、各教科、委員会活動、給食、夏休みなどがあげられていた。

食育を行う方法・手段としては、栽培活動、農作業体験、料理教室、栄養士・栄養教諭などとの連携授業、外部講師を招いての講演、様々な人との会食の機会を設けるなどがあげられていた。

食育の内容としては、行事食(柏餅、おこしもの)、栄養・栄養バランス、地場産物、食の安全、生活習慣などがあげられていた。

## 3.2 愛知県下の既存の「食に関する指導の全体計画」の検討・考察

「食に関する指導の全体計画」は 3 つの点で食育に有効であると考ええる。1 つとして、学校の全

教職員で統一した食育に取り組むことができる。小学校での食育は、多くの学校において担任と

栄養教諭や学校栄養職員がティームティーチングで行っている場合が多かった。食育をする場は授業や給食指導の場だけではなく、日々の生活から行っていくことも大切である。栄養教諭や学校栄養職員の在籍の有無に関わらず、全教職員が自分自身も食育をしていかなければならないという意識を持つ必要がある。

また、食育はどの領域で行われるのがよいか、誰が中心となって取り組むべきか、どのような内容を取り入れるべきか等ということに対して、職員の考え方も多種多様であった。それぞれの職員が各学校の食育の基本的な方針を理解して、一貫し、統一性のある食育を行っていくためにも、「食に関する指導の全体計画」は大変重要な役割を果たすと考ええる。

2 つ目として、各教科等との連携がわかりやすく、また、とりやすくなることが上げられる。学校における食育は、日々の学校生活や教育活動全体の中で、広く行われる必要がある。現在の教育課程では、食に関する指導を行う特別な時間枠がもうけられていないため、決まった時間数の獲得が難しい。給食の時間を中心として、各教科や、道徳、特別活動にも食に関する指導内容が位置づけされている。また、総合的な学習の時間においても健康教育の観点から食に関する課題を取りあげて学習を展開されている。各教科等での特徴を活かした、多様な面からの食への学びは、とても大切なことである。そこで、各教科等で、それぞれ食に関する指導内容が、いつ、どのように行われるのかを把握し、それらも含めて、「食に関する指導の全体計画」を立てて、計画的に行っていくことが必要であると考ええる。

3 つ目の理由として、保護者や地域の人にわかりやすく説明するための資料となることがあげられる。児童が学校で食について学んでも、家庭で実践されなければ習慣化は難しい。また、家庭や地域の人と連携し、協力して行うことによって様々な実践が可能になる。そのために、学校でどのような方針で、どのような食育を行っているのか理解してもらうことが必要である。

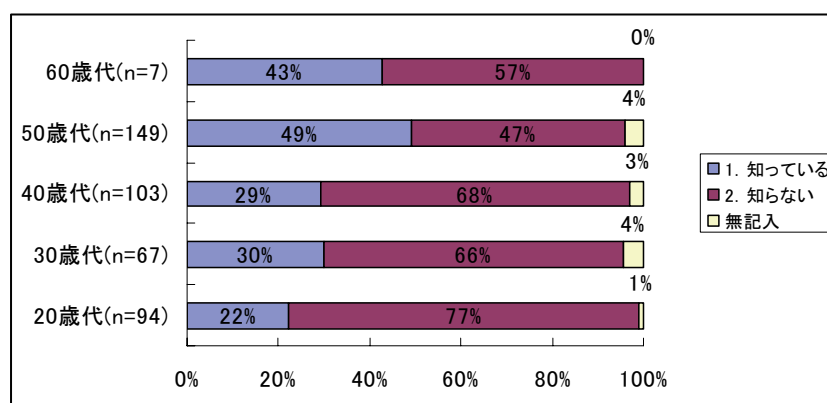


図2 「食に関する指導の全体計画作成について」の通知をご存知ですか(年代別)

愛知県下の小学校職員は「食に関する指導の全体計画について」の通知について約3割は「知っている」としていたが、6割は「知らない」としていた。これは、職員の一部のみが「食に関する指導の全体計画」の作成に関わっており、職員全体が周知し、作成に関わることがまだ行われていな

いのではないかと考える。

愛知県下の小学校で「食に関する指導の全体計画」を作成している小学校に依頼し、「食に関する指導の全体計画」を集めた。回収できた 16 校の「食に関する指導の全体計画」の形式としては表 1 に示すように、6 つのタイプに分けられた。

表 1 愛知県の既存の「食に関する指導の全体計画」のタイプの分類

タイプ	特徴	分類した 学校数
タイプ 1	タイプ 1 は、愛知県教育委員会からの通知とともに添付されていた、「食に関する指導の全体計画」の例の形とほぼ同じ形で作成されたものを分類した。ほとんど全ての項目が記載されており、項目それぞれが詳しく分けて書かれていた。(各学年ごと、各月ごとの目標など)	4 校
タイプ 2	タイプ 2 は、タイプ 1 とほぼ同じ形であるが、「教科ごとにおける指導内容等」の項目では、全教科についての記載がなく、特定の科目との関連のみが書かれているものである。	4 校
タイプ 3	タイプ 3 は、「児童の実態・保護者の願い・地域の実態」「学校教育目標」「食に関する指導目標」「各学年の発達段階に応じた食に関する具体目標」の記載がなく、給食指導の目標がメインの形のものを分類した。各教科の関連は、特定の教科のみが書かれていた。また、「保護者・地域との連携」「食生活についての個別相談指導の考え方」の記載もなく、6 つの分類のうち最も簡易なものである。	3 校
タイプ 4	タイプ 4 は、「児童の実態・保護者の願い・地域の実態」「学校教育目標」が書かれておらず、タイプ 3 と似ているが、給食指導がメインではなく、「各教科ごとにおける指導内容等」がメインの形のものである。	2 校
タイプ 5	タイプ 5 は、全体的な形はタイプ 1 やタイプ 2 に近いが、「給食の時間・目標及び指導内容」や「教科ごとにおける指導内容等」が簡略化されており、全学年同じ目標で、一年間同じ目標で書かれていたものをである。	2 校
タイプ 6	タイプ 6 は、食育を学校を挙げて取り組んでいる学校のものである。見本の書式とは全く異なった学校独自の形式で書かれており、各学年ごとに一年間の通した食育の授業の流れを主として、「教科ごとにおける指導内容等」が書き込まれていた。他のタイプではあまりかかれていなかった「評価」が記載されていた。	1 校

### 3.3 刈谷市立日高小学校における「食に関する指導の全体計画」に沿った実践の検討・考察

資料 1 に示す、平成 21 年度の「食に関する指導の全体計画」に沿って、「食まるファイブ」を取り入れた食育を一年間行ってきた刈谷市立日高小学校での実践を検証した。

### 3.3.1 食育キャラクター「食まるファイブ」を活用した食育を行うまでの経緯

日高小学校において、「食まるファイブ」を紹介するために、2008年11月に本学学生と日高小学校の教員による「食まるファイブ」の劇を上演した。その後、2009年度から「食まるファイブ」を活用した食育を行っていくことが決定された。(写真1、2)



写真1、2 「食まるファイブ」の劇

### 3.3.2 教科等における食に関する指導



写真3 養護教諭による授業



写真4 大きな手袋

「教科等における食に関する指導」の例として、1年生活科で「食まるファイブについて知ろう！」という授業を行った。大きくなるには何が必要であるか考えることからはじめ、低学年の目標である「食まるファイブについて知り、食材を分けることができる」を目標に、「食まるファイブ」の歌を用いて、食まるファイブについて学んだ。「食まるファイブ」の大きな手袋やペーパーマグネットを作成し、活用した。「ごはんのゆびをちゃんとそろえればげんきいっぱいになるからちゃんとまもりたいです。」や「これからぜんぶの(食まるファイブの)ものを食べるよ。」といった感想が得られた。(写真3、4)



写真5 紙芝居



写真6 「食まるファイブ」の人形



写真7 野菜の実物を使っている様子

また、3年学級活動では「ベジまると友達になろう！」を行った。中学年では「食まるファイブのそれぞれの働きを知る」を目標に、食まるファイブの中の一人を取り上げた授業を行った。ま



ずはベジまるを取り上げ、野菜について、紙芝居や人形を使ったり、実際に食材を提示したりしながら学んだ。授業の感想に、「お母さんに野菜の料理を増やしてもらえばいいね。」や「少しずつでいいからたべていたらきっと野菜が好きになるよ」という感想がみられた。(写真 5～7)

6 年家庭科では、「バランスのよい朝食を作ろう」の単元で、「食まるファイブ」を取り入れた授業を行った。調理実習にむけて、各クラスで担任による授業の中で、食まるファイブについてと、食事のバランスについて学んだあと、1 クラス 6 班に分かれ、全クラスの各班 1 つずつ、オリジナルのオムレツレシピを考え、最終的に 18 種類のオムレツから 6 種類を選出した。選ばれた 6 種類のオムレツは、「オムレツファイブ」「カルシウムオムレツ」「色合いパッチグーオムレツ」「あんかけオムレツ」「栄養 3 色オムレツ」「コーンチーズオムレツ」である。1 クラスで 6 種類全部のオムレツが作られるように、班同士で話し合って決めた。

調理実習当日は、刈谷市内の卵業者を招き、オムレツを作る際のコツやポイントの説明を行った。今回は、業者の方においしいオムレツを作るコツを教えてもらうことと、自分たちで考案したオムレツの試食会をメインとするために、材料は開始前に切る作業と仕分ける作業は学校側と本学学生によって準備しておいた。1 班が 1 種類ずつ、卵 4 つ使って、3 つオムレツを作った。1 つのオムレツを半分に切って 6 班分皿に用意し、全ての班にオムレツを配膳していった。6 種類全てのオムレツを見た目、味、栄養バランスに注目して、良い点、改善した方がよい点をワークシートに書きながら試食をした。その後、良かったところ、アドバイスを発表し合い、一番おいしかったオムレツの投票を行った。(写真 8～10)



写真 8 オムレツを作る



写真 9 卵業者の話



写真 10 完成したオムレツ

### 3.3.3 学校保健委員会における取り組み



写真 11,12 保健委員と職員による劇



写真 13 保健委員によるお昼の放送

学校保健委員の取り組みとして、食育月間である 6 月に、食まるファイブの劇を保健委員と職員が、全校児童を対象に上演した。(写真 11、12)

また、毎週水曜日に保健委員会がお昼の放送で、給食の献立や、その日の献立にはどの「食まるファイブ」が使われているか、食材の栄養の知識や「食まるファイブ」の歌などを放送している。(写真 13)



写真 14 献立を「食まるファイブ」に分ける作業



写真 15 保健室前の掲示

また、その日の給食を「食まるファイブ」で分類し、みんなの目に付くように、保健室の前に掲示している。(写真 14、15)

さらに、毎週水曜日にお昼の放送に合わせて「食まるファイブチャレンジ」という活動を行っている。資料 2 に示すように「食まるファイブ」に関する問題や食に関する問題が 1 問と給食を残さず食べたどうかチェックする欄が記載されている。それを保健委員会が回収、集計し、結果を保健室前に掲示したり、がんばっている学級に表彰状を渡したりして、啓発している。



写真 16 食まるファイブチャレンジの時間



写真 17 食まるファイブチャレンジの集計




写真 18 賞状を受けとる子ども


**5月13日食まるファイブチャレンジ**

**年 組** \_\_\_\_\_


**◆◆もんだい◆◆**



きょうのきゅうしょくにはいていたべじまるくんは、じゃがいも・にんじん・たまねぎ・マッシュルームとあとひとつなんだったでしょうか？



こたえ



**◆◆きょうのきゅうしょくはのこさずたべましたか？◆◆**

ぜんぶたべた    すこしのこした    たくさんのこした

(○をつけましょう)

資料 2 食まるファイブチャレンジシート



### 3.3.4 家庭への広報・啓発活動



資料 3, 4 食まるファイブカレンダー



資料 5, 6 食まるファイブ通信



広報・啓発活動として年間を通して、上半分をぬり絵にした「食まるファイブカレンダー」を配布している。毎月食生活に関する目標を家庭で相談して決めて、19日の食育の日の週に目標が達成出来たかどうかチェックするようにしている。自主的に毎日チェックしている子どももいる。保護者からの一言欄も設けられており、家庭での様子を知ることができる。一年間を通すと色の塗り方等により、「食まるファイブ」が定着したことが分かった。(資料 3、4)

また、毎月 19 日の食育の日に「食まるファイブ通信」を発行した。内容は、食に関する情報や学校での食育の様子、献立ワンポイントアドバイスなどである。また、学校からの一方的なものにしないため、家庭から「我が家の朝食レシピ」を募集し、それも「食まる通信」に載せている。(資料 5、6)

### 3.3.5 保護者の学校行事への参加や外部との連携

7 月に明治乳業と連携し、保護者を対象に、第 1 回学校保健委員会で、朝ごはんのミラクルパワーについて学んだり、チーズ作り実習を行ったりした。

また、7 月に卵業者と連携し、夏休み親子調理実習を開催した。6 年生が家庭科で考案したレシピでオムレツを作った。また、学校側でごはん、みそしる、すいかを用意し、「食まるファイブ」の紹介とともにバランスのよい食事について学んだ。(写真 19、20)

12 月には第 2 回学校保健委員会で、野菜ソムリエを講師として招き、野菜のお話・野菜の食べ比べを実施した。



写真 19 卵業者の方の話



写真 20 オムレツの試食

### 3.3.6 日高小学校の実践の検討

「食まるファイブ」を活用した「食に関する指導の全体計画」に沿った日高小学校の実践が、どの

ように有効であったか検討、考察するために、日高小学校職員に対する事前と事後の食に関するアンケート調査、子どもを対象にした食に関するアンケート調査を行った。また、授業等での子ども、保護者の感想、日記から分析した。

日高小学校の職員のアンケート調査の結果から、図3に示すように、「子どもたちに食まるファイブが浸透し、親しまれているか」という質問に対し、職員全員が「そう思う」として

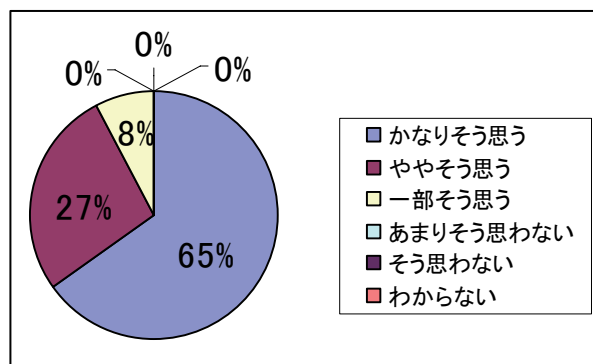


図3 子どもたちに食まるファイブが浸透し、親しんでいるか

図4に示すように、子どもの食に対する意識の変化が見られたとする割合は高かったが、図5に示すように、食に対する行動での変化がみ

られたとする割合は半分以下であった。望ましい食習慣が定着するには、さらに継続的な指導が必要であり、また学校だけでなく、家庭との協力が必要と考える。

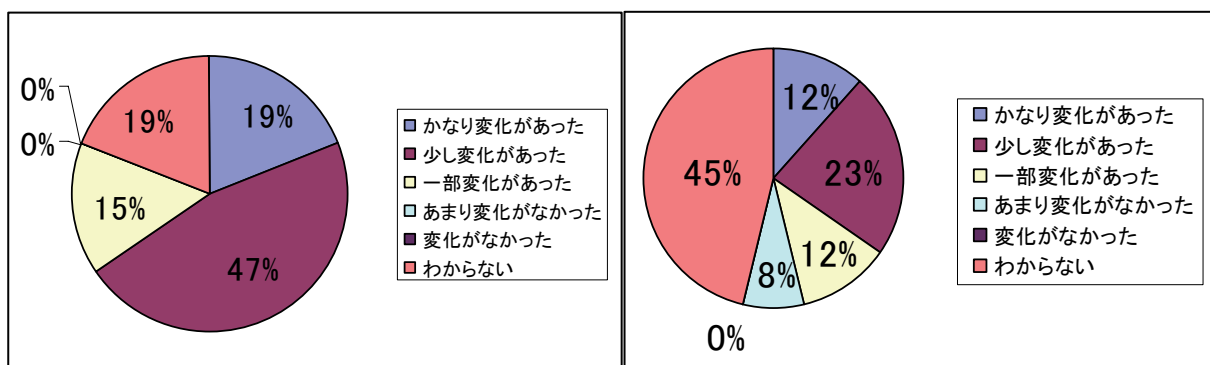


図4 子どもたちの食に対する意識として変化があったか

図5 子どもたちの食に対しての行動に変化があったか

「子どもたちのどのような面から、(食に対する意識として) 変化がみられましたか」という質問に対して自由記述をしてもらったところ、表2が得られた。

表2 どのような面で変化があったか(自由記述)

給食時	食まるファイブの話題	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食をみて〇〇まるということがある。</li> <li>話題に良く出る。</li> <li>給食のときにどれがどの食まるか考えていました。</li> <li>食まるファイブを意識するようになった。 など</li> </ul>	10 人
	栄養バランスへの意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養バランスについて興味をもつようになった・</li> <li>バランスの良い食事をしなくてはいけないという意識が高まった。 など</li> </ul>	4 人

の 変 化	食べ物を残さない気持ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦手な食品も食べようと努力している。</li> <li>・ 牛乳を少しでも飲もうとする意思が見られるから。</li> <li>・ 給食のこすとだめだと子どもに言われた。「食まるがかなしいよ」 など</li> </ul>	5 人
	食べ物自体への興味	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給食時に食べ物自体に興味を持つようになった</li> <li>・ 給食の献立により興味を持つようになった。</li> <li>・ いろんな食材がでてきたり必要な栄養がわかっている感じがします。など</li> </ul>	3 人
その他の変化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クイズ(食まるチャレンジ)などがあったので意欲的に参加していた。</li> <li>・ 食まるチャレンジの正解率が上がった。</li> </ul>	2 人

「食まるファイブを話題にしていること」「栄養バランスを意識していること」「食べ物を残さない気持ちを持ったこと」「食べ物自体への興味を持ったこと」に分類した。その結果、「食まるファイブの話題」が出ることから子どもたちの変化を見ている人が最も多かった。その他として、保健委員会で取り組んでいる「食まるチャレンジ」から、子どもたちの変化を見ている人がいた。学校での食育の成果は、給食時に最も表れやすいことがわかった。

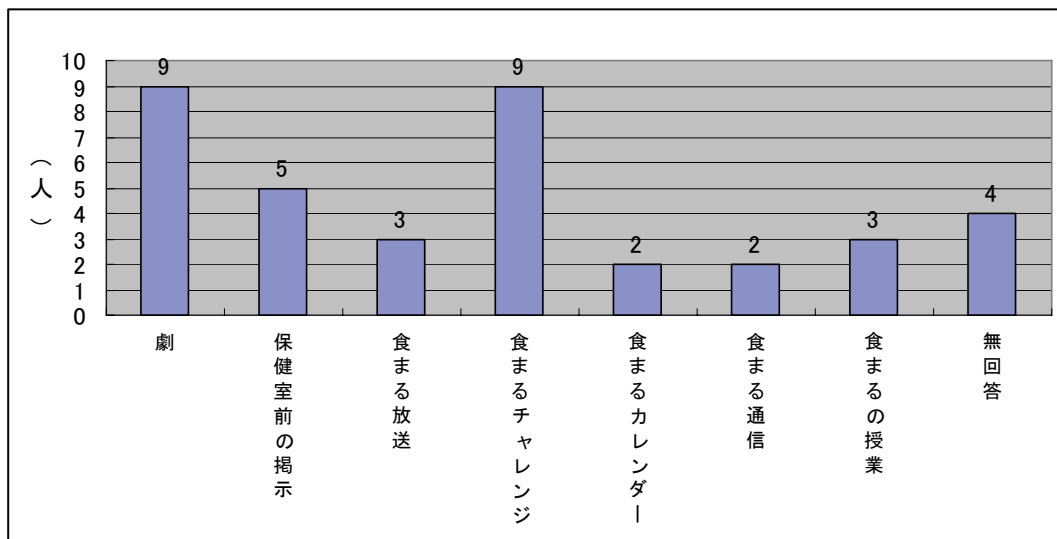


図 6 子どもに効果があると思われた取り組みは何か(複数回答)

「食まるファイブ」を活用した食育を行ってきて、「最も効果があると思われた取り組みは何ですか」という質問にたいして、図 6 に示すように、「劇」と「食まるチャレンジ」と答える人が多かった。「劇」は「食まるファイブ」や食に興味を持たせることにおいて、とても有効であり、また、「食まるチャレンジ」は毎週続け、少しずつ「食まるファイブ」に関して、クイズ形式で楽しく学ぶことが出来ることが評価されたと考える。

また、職員は「食まるファイブ」を活用しての食育に対して全員が「効果がある」としており、来年度も「食まるファイブ」を活用して食育を進めることに「賛成」としていた。

子どもの感想、日記等から、表 3 に示すように、今後の行動の決意がかかっているなど、食への意識が高まっている様子がみられた。また、行事に参加した保護者に、「このような機会があっ

たらまたぜひ参加したい」や「家庭でも実際に(「食まるファイブ」を)取り入れてみようかなと思います」など、食育へ興味をもった様子が伺える感想がみられた。

表3 子どもの授業の感想

わたしは、ごはんのゆびをちゃんとそろえればげんきいっぱいになるからちゃんとまもりたいです。(1年生「食まるファイブについて知ろう!」の授業の感想)
ぼくはぜんぶのことをやったらいろいろなものがわかったよ。これからぜんぶの(食まるファイブの)ものをたべるよ。(1年生「食まるファイブについて知ろう!」の授業の感想)
今日分かったことはちゃんと野さいを食べないと目や体がつかれたりしちゃうからきちんと野さいを食べようと思いました。たまに野さいをのこしてしまうからこれからはきらいなやさいもきちんとたべるようにする。(3年「ベジまると友達になろう!」の授業の感想)
わたしはちょっとやさいがにがてなのですこしずつでもいいからふやしていきたいです。(3年「ベジまると友達になろう!」の授業の感想)

日高小学校における平成21年度の「食に関する指導の全体計画」と実践とを検討した結果、以下の4点を改善する必要があると考えた。

まず1つは、低学年の内容をもう少し多くするとよいのではないかということと、中学年の目標は2年間では内容が多すぎるのではないかということ。

2つ目として、低学年と中学年で食に関する指導と高学年からはじまる家庭科とを関連させること。

3つ目として、今年度は「食事のバランス」にかかわる視点が多くなってしまったこと。これについては、日高小学校では、「食まるファイブ」を導入して1年目であり、まずは「食事のバランス」をテーマに、「食まるファイブ」を子どもたちに定着させ、その上で、学年ごとに徐々に他の視点と関連させるなど、発展させていくべきであると考えた。

4つ目として、「食に関する指導の全体計画」の中で、他教科とのつながりを確認し、さらに広げていくべきであることがあげられる。

これらを踏まえ、新しい「食に関する全体計画」案を作成した。(資料7)また、他の小学校でも活用できるよう、「食まるファイブ」の取り組みを掲載した「食に関する全体計画」の枠組みを作成した。(資料8)

#### 4. まとめ

本研究の結果から、以下のことがわかった。

刈谷市立日高小学校での実践により、「食まるファイブ」を活用し「食に関する指導の全体計画」を進めていくことで、単発的な取り組みから系統的、継続的な取り組みになり、より子どもに有効な食育を行うことができると考えられる。これまでの単発的な「食まるファイブ」を活用した実践は、一時的に子どもの食に対する意識の変化は見られたものの、子どもたちの食に対する行

動を日常生活に定着させるまでにはいたらなかった。しかし、継続的な取り組みにすることで、子どもたちの食に対する意識が系統化され、食に関する望ましい行動の変化の定着が図れる可能性がみえた。

「食に関する指導の全体計画」を作ることで「食まるファイブ」を活用する場が、子どものどの発達段階で、どのような取り組みとして必要になるかが見え、来年度食育を進めていく際にも、参考にすることができる。また、計画があることで、子どもたちも他学年の取り組みを見て、一年間の見通しを立てることができる。

さらに、食まるファイブカレンダーなど、一年通しての取り組みをすることで、子どもや家庭、教師が自らの行動や意識を振り返ることが可能になり、食育を継続して行っていく上で、大きな意義があると考ええる。

しかし、今回刈谷市立日高小学校での実践を踏まえて作成した「食に関する全体計画」案には、まだ完全とは言えない。この「食に関する全体計画」案を活用した実践を行いながら、不十分な部分を補足し、さらなる検討していきたいと考える。

全国どこの小学校でも、保護者や地域の人、企業を巻き込んで、「食まるファイブ」を活用した、楽しく、わかりやすい食育が行われることを可能にするために、その学校独自の食育が簡単に行える「食に関する計画」案について、今後も検討していきたい。

## 参考文献

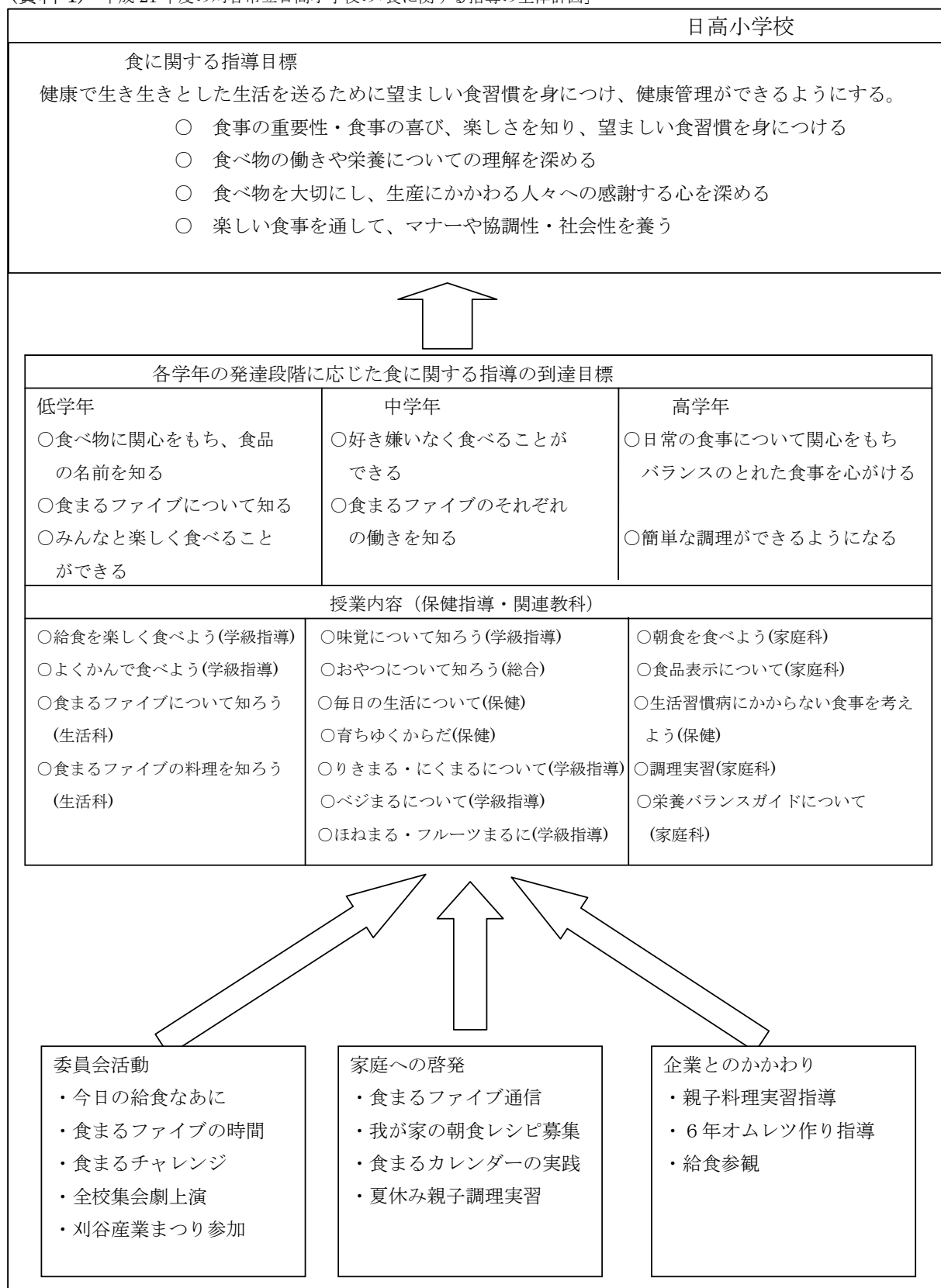
- 藤沢良知 「食育の時代—楽しく食べる子どもに—」 第一出版株式会社 2005 年
- 中村丁次・田中延子 「基礎からわかる・授業に活かせる食育指導ガイドブック」 丸善株式会社 2007 年
- 北俊夫 「食育—学校でつくる食生活の基礎・基本 第1～第4巻」 明治図書出版 2007 年
- 愛知県西尾市立寺津小学校・中学校 「学級担任、養護教諭、栄養教諭が進める『はじめよう 食育』  
(小中9年間の教材と授業マニュアル)—文部科学省研究開発学校(小中一貫教育)の取り組み—  
東山書房 2006 年
- 内閣府 「食育白書」平成21年度版
- 中田哲也 「フード・マイレージ あなたの食が地球を変える」 日本評論社 2007 年
- 池上甲一・岩崎正弥・原山浩介・藤原辰史 「食の共同体—動員から連帯へ」 ナカニシヤ出版 2008 年
- 河合知子・佐藤信・久保田のぞみ 「問われる食育と栄養士 学校給食から考える」 筑波書房 2006 年
- 藤沢良知 「図解食育」 全国学校給食協会 2007

## 謝辞

本稿を執筆するにあたり、アンケート調査や実践等にご協力していただいた刈谷市日高小学校の湯浅みゆり校長先生、杉浦文子先生をはじめ、諸先生方、児童の皆さん、また、アンケートにご協力くださった愛知県下の小学校教職員の方々に心よりお礼を申し上げます。



(資料 1) 平成 21 年度の刈谷市立日高小学校の「食に関する指導の全体計画」



(資料 7) 「食まるファイブ」を取り入れた「食に関する全体計画」案



(資料 8) 「食まるファイブ」を取り入れた「食に関する全体計画」案の枠組み

